



命の重み 人形劇で伝えたい



26日に人形劇「あわせの種」を上演する鷺見さん(手前左から3人目)や鈴鹿大の学生たち=東員町内で

東員で26日 交通事故遺族・鷺見さんら
交通事故で子をとった経験に基づいた人形劇「あわせの種」の公演が二十
六日午後二時から、東員町山田の町総合文化センターで開かれる。趣旨に共鳴し
た鈴鹿大の学生たちが初参加し、遺族たちとともに「命の重み」を訴える。

(遠藤康訓)

「あわせの種」は、同 さん(父)が、一九九七年に
町六把野新田の鷺見三重子 長男拓也さん(当時二歳)
を事故で亡くした体験を物
語にした。家族を突然奪わ
れた悲劇だけでなく、その
後の事故防止の動き、エビ
ソードを盛り込み、拓也さ
んが残した「種」が芽吹い
ていく経過を描く。

鷺見さんは事故後、交通
事故や犯罪に遭った人たち
をサポートする「みえ犯罪
被害者総合支援センター」
に携わり、各地の学校で自
分の体験を伝える活動を続
けてきた。人形劇は二〇一
六年に制作を始め、昨年二
月、拓也さんの母校・神田
小で初披露した。同年四月
にも四日市市内で二度目の
公演をした。

今回の公演は鷺見さんが
代表を務めるグループ「い
のちの言葉プロジェクト」
の七人に加え、支援センタ
ー副理事長の鈴鹿大・仲律
子教授の紹介で「子どもポ

教諭志望の鈴鹿大生 初参加

ランティア部」の二年生五
人が出演する。
部長の北出潤人さん(二七)
は「鷺見さんは悲劇を受け
止め、前向きに今を生きて
いると感じる。劇のテーマ
『命』を分かりやすく、丁
寧に伝えたい」と意気込
む。五人は幼稚園教諭や養
護教諭を目指して「子
どもたちに命の重みを伝
え、その先につなげていか
なくてはならない。将来の
勉強にもなる機会」とも語
る。

鷺見さんは「五人の学生
たちはいずれ幼稚園などで
活躍してくれるだろう。そ
の時、生きたくとも生きら
れなかった命を語り、次の
世代にバトンを渡していっ
てほしい」と願う。
東員町などが主催する
「人権講座」の一環で、人
形劇に続いて鷺見さんの講
演もある。別会場では、交
通事故の遺族らが寄せたメ
ッセージ入りの灯籠「いの
ちの灯り」を展示する。
無料。先着七十人程度、
予約も受け付ける。(四)町社
会教育課 0594(86)
2816

保護者の意向調査

四日市市教委 大天引興義小の収容

「地域としっかり話し合っ
て進めるべきだ」などの意
見が寄せられたという。
市教委は結果提出後、議

泥んこ遊び「気持ちいい」

四日市・暁幼稚園、田植え前に園児

園児
園で
泥んこ



〈草むらで〉
孫(この草むらで)カラスノエンドウ
だった? スズメノエンドウだった
たなか・たいむ(9) 鈴鹿市十宮
町、祖母・田中夏苗
〈確立〉
孫(老眼
需品で、
ふるふ

(c)中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています